

2017(平成29)年度 沖縄国際大学入学試験問題（前期）
法律学科・経済学科・企業システム学科・社会文化学科・人間福祉学科（心理）
【選択科目：地理 B】

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
2. 入学志願票及び受験票に記入された科目を解答すること。
3. 入学志願票及び受験票に記入された以外の選択科目を解答した場合は、無効とする。
4. 筆記用具は、鉛筆（HB）または、0.5ミリのシャープペンシル（HB）に限る。
5. 問題の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
6. 問題冊子の余白等は適宜利用してもよい。
7. 試験終了後、解答した解答用紙のみを提出すること。問題冊子は持ち帰ること。

2017(平成29)年度 沖縄国際大学入学試験問題(前期)

法律学科・経済学科・企業システム学科・社会文化学科・人間福祉学科(心理) 【地理 B】

※ 解答はすべて解答用紙に記入すること。

I ヨーロッパに関する次の文章と図1をみて、下記の間に答えなさい。

ヨーロッパの気候は、アルプス山脈以南の地中海沿岸の南部と中央部および北部に大きく分けられる。北部は ① 帯で針葉樹林が広がっている。西部から東部にかけての中央部は、西岸海洋性気候がはるか内陸部までおよび、高緯度にもかかわらず冬も比較的暖かく、ブナなどの落葉広葉樹が広く分布している。南部の地中海沿岸は、~~落葉広葉樹~~の ② やコルクガシのような耐寒性の樹木が多くみられる。

硬葉樹^{※1}

古くからのヨーロッパの農業は、穀物栽培と畜産の組み合わせを基本とした ③ 農業と、冬作物である小麦と夏の乾燥に強い ② やブドウなどの栽培を中心にした地中海式農業が営まれてきた。さらに、アルプスにおいては、谷底から斜面上方の森林限界の上にある草地まで、1年の間、季節のリズムにしたがって、移動し利用する ④ という農牧業も営まれている。

現在、北海に面した⁶オランダやデンマークでは、集約的な ⑤ が発達しており、家族経営を中心として、最新の技術を導入した農業が行われ、⑥ 製品や肉製品の輸出を伸ばしている。スペインからギリシャにかけての地中海沿岸では、冬も比較的温暖な気候を生かして ⑦ 栽培が拡大し、果実、ぶどう酒の輸出をめぐる競争が激しくなっている。

ヨーロッパは、二度にわたる大戦で多大な戦禍を被った。紛争のもとになった石炭資源と鉄鋼業を共同管理下におくことを目的に、1952年に⁶ヨーロッパ連合(EU)の基礎となるヨーロッパ石炭鉄鋼共同体(ECS C)が設立された。以後、1958年にヨーロッパ経済共同体(EE C)が発足し、域内の交易条件が有利になると、さらに1967年にはヨーロッパ共同体(EC)となり、域内 ⑧ の撤廃と共通農業政策を実現した。1993年には、⑨ 条約が発効し、域内の国境管理の廃止、人や物の域内移動の自由化が実現した。

フランスやロンドンなどの大都市圏では、古くからの大都市が衰退する ⑩ の問題が顕在化し、移民増加による都市問題が複雑になっている。

※1 本文4行目の「落葉広葉樹」を「硬葉樹」に訂正し、②について全ての受験生の解答を正解としました。

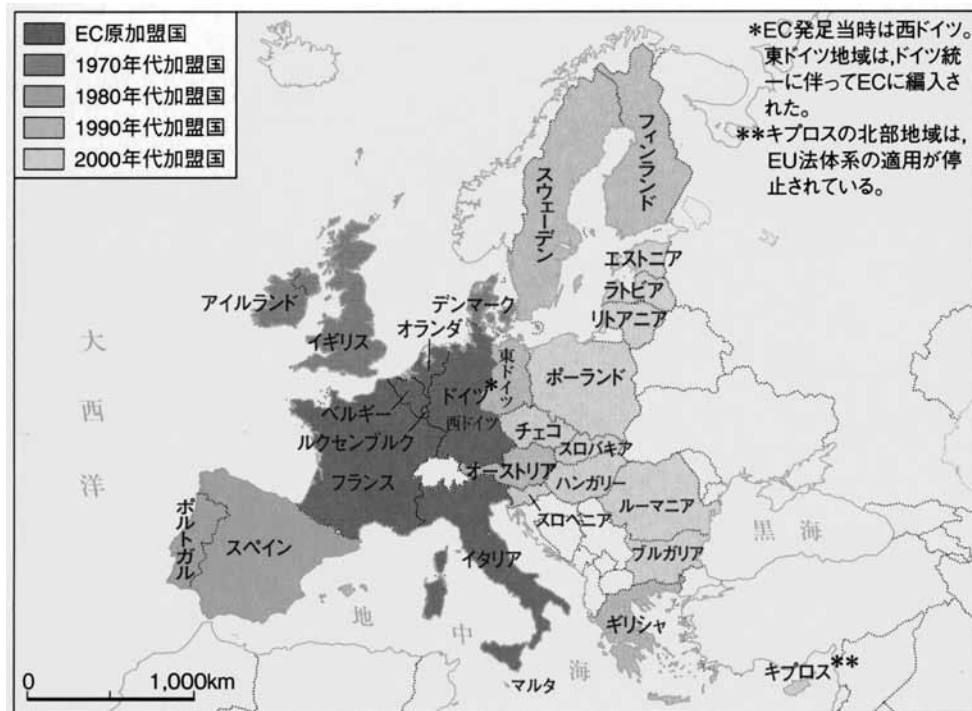


図 1

問 1 ① ～ ⑩ に適切な語句を記入しなさい。(各 2 点)

問 2 下線部 a について、ケッペンの気候区分より気候の特性を記述しなさい。(4 点)

問 3 下線部 b について、低湿地を造成した地理的環境を記述し、主要な農産物を答えなさい。
(6 点)

問 4 下線部 c について、1999 年に導入された共通通貨の名称を答えなさい。(2 点)

問 5 2016 年に、ヨーロッパ連合 (E U) からの離脱を決めた国を記入しなさい。(2 点)

Ⅱ 東南アジアでの自然環境と産業に関する文章を読んで以下の問に答えなさい。

夏と冬で ① が反対になる風をモンスーン（季節風）という。気圧の変化によって、夏は湿った海洋から大陸へ風が吹くため ② に、冬は乾いた大陸から海洋へ風が吹くため ③ になる。東南アジアでは、夏の南西モンスーンによって大半の地域が ② になる。反対に冬は大陸からの北東モンスーンによって大半の地域が ③ になる。このような気候のもと、焼畑農業を行う山地の少数民族は、乾季に ④ をし、雨季に ⑤ をまく。水田地帯では雨季の開始とともに稲の ⑥ をはじめ、乾季に入り稲の ⑦ を行う。

東南アジアは世界でも有数の稲作地域になっている。タイは世界一の米の ⑧ であり、タイを南北に流れる ⑨ の周辺では運河と水路網が水田を縫って広がっている。季節に合わせた伝統的な稲作は、1960年代半ばから ⑩ を開発して収穫を増やす農業の改革である「緑の革命」が進展した。東南アジア各国には、19世紀以降、欧米諸国による植民地支配のもとで、天然ゴムや油ヤシ、バナナ、コーヒーなどのプランテーションが数多く開かれてきた。

東南アジアは豊かな天然資源を持つ地域である。植民地時代には、これらの資源が ⑪ により開発されたが、独立後に東南アジア各国は国民生活の向上のために工業化政策をとり、1970年代からは外国企業を積極的に誘致し、⑫ の工業化を進めた。

マレーシアやタイでは、1980年代以降、外国から ⑬ ・電気・電子などの部門への投資が増えて急速に工業化した。ベトナムでは、市場開放政策を採用し、社会主義型の市場経済へ移行した。

問1 ① ～ ⑬ にあてはまる語を、下記の語群から選択して記号で答えなさい。

(各1点)

【語群】

- | | | | | |
|----------|--------|----------|------------|--------|
| ア. 新しい品種 | イ. 雨季 | ウ. 乾季 | エ. 風向き | オ. 栽培 |
| カ. 収穫 | キ. 種子 | ク. 宗主国 | ケ. チャオプラヤ川 | コ. 半導体 |
| サ. 火入れ | シ. 輸出国 | ス. 輸出指向型 | | |

問2 図2の ① ～ ③ に入る都市名を、図1を参考に答えなさい。(各1点)

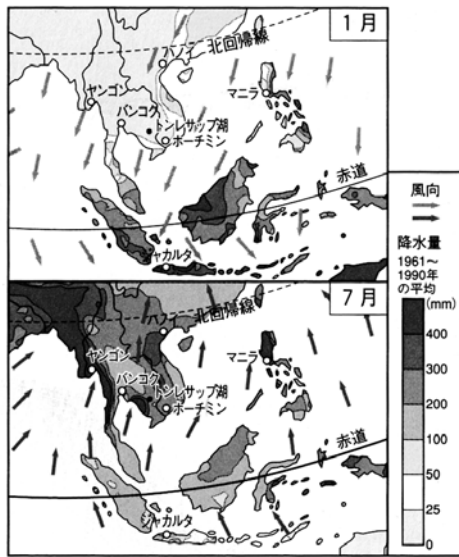


図1 モンスーンと降水量の変化

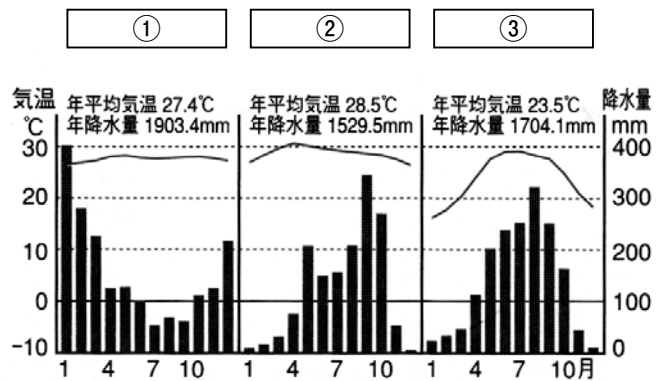


図2 主な都市の気温と降水量

問3 下線aの焼畑農業の課題を答えなさい。(3点)

問4 下線bのマレーシア・インドネシアの油ヤシと、フィリピンのバナナのプランテーション農業の特徴を答えなさい。(各4点)

問5 下線cの外国企業が進出する理由と、進出の影響・輸出品の変化の特徴を答えなさい。
(各2点)

問6 下線dの政策名を答えなさい。(2点)

Ⅲ 次の図は、平成15年国土地理院発行2万5千分の1「与論島」の地形図である。この図をみて、以下の問について答えなさい。



図4

- 問1 与論島は何県にあるか記しなさい。(2点)
- 問2 与論島の地質を構成する主な岩石はなにか記しなさい。またこの岩石の化学的性質によって形成された地形をなんと呼ぶか記しなさい。(各2点)
- 問3 与論島でみられる凹地はなんと呼ばれているか記しなさい。(2点)
- 問4 与論島周囲を囲むように→で示した沖合に線状につらなる隠頭岩は地形的になんと呼ばれているか記しなさい。(2点)
- 問5 問4で示した隠頭岩と島部の海岸線との間に広がる水域をなんとよばれているか記しなさい。(2点)

問6 与論島は次にあげる島のタイプのうちどれが当てはまるか次の語群から選りなさい。

(1点)

(a) 裾礁

(b) 堡礁

(c) 環礁

問7 与論島東側 1.5km に位置する百合ヶ浜はどのような特色を有する砂浜か記しなさい。

(4点)

問8 ○で示した与論町の役場のある地区名を記しなさい。(2点)

問9 与論島内における主な農業的土地利用について農作物も含めて説明しなさい。(7点)

問10 与論島内にため池が複数みられるがその理由について説明しなさい。(7点)

